

令和4年度  
No. 1  
6月30日

# 全連小速報

全国連合小学校長会事務局  
東京都港区西新橋1-22-14  
電話 03-3501-9288  
発行人 会長 大字弘一郎  
編集人 広報部長 横溝 宇人

## 3年ぶりに全国から参集し活気溢れる総会 — 全連小第74回総会・研修会を開催 —

令和4年度全国連合小学校長会第74回総会・研修会は、5月27日（金）、東京・ニッショーホールにて、文部科学省大臣官房審議官 淵上孝様をはじめ多数のご来賓を迎え、全国から代議員、理事、監事並びに一般会員の参加を得て、3年ぶりの一堂に会しての開催となった。

大字会長のもと、「自らの使命を自覚し、志高く挑戦し続け、子どもたちと学校の未来を見据えた確かな計画と実行力をもって信頼に応える校長会」を目指し、全会員の力を結集し、全力で取り組んでいくことを確認し合い、活気に満ちた総会となった。



- ① 開会式 司会 小正 庶務部長  
1 開会のことば 上山 副会長  
2 国歌斉唱  
3 役員紹介  
4 会長あいさつ（要旨） 大字 会長

本日、全国連合小学校長会第74回総会・研修会の開催にあたり、文部科学省大臣官房審議官 淵上孝様をはじめ、多くのご来賓のご臨席を賜り、心より感謝申し上げます。3年ぶり対面での総会・研修会となり、全国各地よりご参集いただいたことに、感謝申し上げます。

この2年間全連小は、校長の学びを止めることなく、オンライン等も取り入れ、活動を進めてきた。全連小の活動では、都道府県を越えて会員同士が集まることによって、新たな出会いと確かなつながりが生まれ、広く深い学びを得て、自らを高めることができる。そして、そこで得た学びを各地区校長会のより一層の発展や学校経営の充実につなげることが、本会の極めて重要な目的である。今年度の活動は、できる限り参集して実施したいと考えている。

新型コロナウイルス感染症は、少人数学級の

実現と教育のICT化の推進という教育界にとっての大きな課題を一気に改善へと向かわせた。昨年3月に義務標準法の改正がなされ、小学校全学年における35人学級が実現することとなった。また、GIGAスクール構想の前倒しにより、日本の教育が大きく変わる転換点となったのが、この2年である。しかし、これらは、手段であって目的ではない。与えられた環境を最大限に活用し、子どもたちに「生きる力」を育むことが目的であり、私たち校長の使命である。

これからの社会は、その在り方そのものが、劇的に変わる状況にある。教育を巡る状況も、変化のスピードを増している。私たち校長は、子どもたちの多様化、情報化の加速度的な進展といった社会的変化に対応するだけでなく、自らが変化の先頭に立ち、新たな価値を生み出していこうとする気概をもつ必要がある。そして、学校教育を預かる自負とその職責の重大さを自覚し、常に志高く自らを磨き、小学校教育のさらなる発展に全力を注ぎ、国民の期待に応えていかなければならない。

コロナ禍の日々を通じて、改めて「教育は人なり」と痛感した。前例のない困難な状況においても、子どもたちのために献身的に働く教職員の姿に、本当に頭が下がる思いである。教職員を大切にす校長でありたいと心から思う。

我々校長が見るべきものは、目の前の子どもたちと教職員であり、子どもたちの未来と学校の未来の姿である。自ら未来を拓き、明るい未来社会を創っていくのは、目の前の子どもたちである。そして、この子どもたちに確かな力をつけていくのが、我々の仕事である。何と夢のある仕事だろうか。

令和の日本型学校教育を創造し、実現させるのは私たちである。子どもたちが、多様な人々と協働しながら、様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓いていけるよう、我々全国の校長が一致団結し、小学校教育のさらなる充実に全力で取り組んでいきたい。

本会の運営に目を向けると、昨年度的全連小石川大会は、誌上開催となった。石川県の意欲的な取組は、我々の日々の学校経営に大いに生きるものとなった。大会関係者の皆様のご尽力に、改めて敬意を表す。

本年10月に開催される全連小島根大会については、3年ぶりとなる対面での全国大会が開催

されることを心より願っている。

そして、今年度は令和5年10月19、20日に開催される第75回全連小東京大会、並びに全連小75周年記念事業に向けた準備が本格化する年となる。会員1万8千余の総力を結集して、大会・記念事業を成功につなげていきたい。

結びに、全連小は結成以来、我が国の小学校教育の充実・発展のため、真摯に研究と実践を重ねるとともに教育条件の整備に努め、多大な成果をあげてきた。その歴史と伝統を引き継ぎ、今後も「自らの使命を自覚し、志高く挑戦し続け、子どもたちと学校の未来を見据えた確かな計画と実行力をもって信頼に応える校長会」を目指し、全国の小学校教育の充実・発展のために、全会員の力を結集し、全力で取り組んでいくことをお誓い申し上げ挨拶とする。

## 5 祝辞(要旨)

(1) 文部科学省大臣官房審議官 淵上 孝様

まだ新型コロナウイルス感染症の収束の目途が立っていない中、子どもたちの学びの保障と感染予防を両立させるため、日々の授業等における感染症対策を徹底しながら教育活動を実施いただいている皆様のご尽力に対し、心から感謝を申し上げます。

学校現場を取り巻く環境は、子どもたちの多様化、デジタル化の加速度的な進展など、日々大きく変化している。このような中で、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、全ての子どもたちの可能性を引き出す令和の日本型学校教育、すなわち、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現していくための取組を進めていくことが重要である。

このため、文部科学省では、昨年1月の中央教育審議会の答申を受け、デジタル化などの社会変化が進む次世代の学校教育の在り方について検討するため、本年1月、中央教育審議会初等中等教育分科会に「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方に関する特別部会」を設置して、検討を進めている。引き続き、全連小をはじめ、関係の皆様ともしっかりと連携しながら必要な取組を進めて行く。

皆様の熱心な取組が、一人一人の子どもたちの可能性を最大限引き出し、子どもたちが新しい時代を自律的に生き、社会の形成に参加するための資質能力を育てていくことができるよう、

今後の小学校教育のさらなる充実・発展を心から期待している。

(2) **日本PTA全国協議会会長** 清水敬介様  
コロナ禍において私たちの生活様式は様変わりした。こうした未曾有の状況の中でも、決して揺るぐことなく子どもたちのためにその職責を全うしていただいている教職員の皆様、そして学校を運営していただいている校長先生の皆様に敬意を表すとともに、厚く御礼申し上げます。

公益社団法人日本PTA全国協議会としても、令和3年度は例年とは違う形での活動を余儀なくされたが、このような事態であるからこそ、広く会員からのご意見を頂戴できるよう模索し、多くの教育関係団体各位との連携をさらに深め有益な情報を提供できるよう「学びの歩みを止めない」を合言葉にして進めてきた。

その取組の一つとして、昨年、「令和の日本型学校教育」の概要を分かりやすく一保護者の目線で「コミュニティスクール」についての動画も作成したところである。

日本最大の社会教育関係団体として、今後も積極的に学校と連携・協働し、教職員の皆様に、少しでも心身ともに充実した教育環境で、子どもたちのために力を発揮していただけるように、様々な課題の解決に向けて取り組み、全国のPTA会員へ発信し続けたい。

(3) **全連小顧問代表** 大橋 明様

令和の始まりとともに、新学習指導要領の全面実施、学校における働き方改革、GIGAスクール構想など、学校教育にとって重要な取組が始められるとともに、それにコロナ禍が重なった。学校経営の難しさには、計り知れないものがあつた。これまでのご労苦に敬意を表す。

さて、昨年の3月、全連小から「新型コロナウイルス感染症対応下の学校経営及び全連小活動」という収録が出された。コロナ禍において、校長先生方が、子どもとのつながりを大切にされた学校経営に腐心されていることに心を動かされた。

今年の3月、国の専門家会議による令和3年度全国学力・学習状況調査についての経年変化分析調査の結果が公表された。

その結果、コロナ禍前の平成28年度の結果と比較して学力低下は起きていなかったこと、中でも算数の学力スコアは高い方へ移動しており、学力が向上しているとも解釈し得る結果が明らか

かになった。臨時休業中はもとより、学校再開後も校長先生方のリーダーシップのもと、全教職員が一丸となって教育活動の充実に取り組まれたことの賜物だと思う。

さらに、令和3年度全国・学力学習状況調査の追加分析も公表された。その分析から、社会的に困難な状況でも、子どもとのつながりを大切にしてきた学校は、平均正答率が高かったことが分かった。まさに、これまで校長先生方が大切にされてきたことの正しさが証明されたと言える。

校長は、学校経営にあたって不易と流行を峻別することが大切だと私は考える。コロナ禍で校長先生方が大切にしてきた子どもとのつながりは、不易のものである。校長先生方にはその時代の流れを的確に読み取りつつ、教育の本質を見失わずに、今後も力強く学校経営を進めてほしい。

◎ **来賓紹介・祝電披露**

**6 退任役員等に感謝状贈呈**

阿久澤前副会長、渡邊退任役員代表、森退任委員代表に贈呈

**7 退任者代表あいさつ（要旨）**

阿久澤 前副会長

令和4年度がウィズコロナからポストコロナへ大きく、そして確実に動き出したと実感している。また、本日の総会・研修会が、多くの会員の皆様にとって、身近に感じ、新たな情報を直接得ることができ、校長としての学びをより一層深化させるものであると確信している。

この3年で全国では校長の世代交代が一気に進んでいる。今回の総会・研修会の開催は、全連小の存在意義やその役割を再認識、再確認する絶好の場であると感じている。全連小がより一層凝集性を高め、常に志を高く挑戦し続けることにより、日本の小学校教育を力強く牽引されることを切に願う。

**8 閉 式** 小正 庶務部長

○ **総会成立の報告** 小正 庶務部長

**2 議長団選出**

向折戸（岩手県）・森山（香川県）代議員

・議長あいさつ

・運営委員の選出 常任理事が当たる

・記録係、議事録署名人の選定

**3 会務・事業報告** 小正 庶務部長

**4 議 事**

◆第1号議案「令和3年度決算承認に関する件  
監査報告」〈承認〉

西山 会計部長、吉岡 監事

◆第2号議案「令和4年度全国連合小学校長会  
活動方針に関する件」〈承認〉 大字 会長

◆第3号議案「令和4年度各部（対策・調査研  
究・広報）活動に関する件」〈承認〉

荒川 対策部長  
植村 調査研究部長  
横溝 広報部長

◆第4号議案「令和4年度通常会計予算に関す  
る件」〈承認〉 西山 会計部長

◆第5号議案「宣言決議に関する件」〈承認〉  
綾野 宣言文起草委員長

### 宣 言

全国連合小学校長会は、結成以来、我が国の小学校教育の充実・発展のため、真摯に研究と実践を重ねるとともに、教育諸条件の整備に努め、多大な成果をあげてきた。

これからの我が国では、デジタルトランスフォーメーションによる社会構造の変化や多極化などがこれまで以上に進行することが予測される。また、持続可能な社会の実現に向け、国際社会における役割の重要性を認識するとともに、世界的な平和や地球環境問題など、世界の動向にも注視していく必要がある。このような中で、学校には、子どもたちの学びの保障と多様な幸せとともに社会全体の幸せでもあるウェルビーイングの実現を目指し、一人一人の可能性を最大限に引き出す教育を推進することが求められる。

校長は、このような社会の変化を深く認識し、自らの使命に誇りをもち、リーダーシップを発揮し「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」に向け、小学校教育の更なる充実・発展に努めなければならない。

そのため本会は、困難な状況にあっても組織の総力をあげて調査・研究活動の充実に努めるとともに、積極的に施策提言を進め、もって国民の信託に応える必要がある。また、東日本大震災をはじめとする災害か

らの教育復興を促進するために、被災地支援を継続的に進めることは我々の責務である。

私たちは、ここに、「自らの使命を自覚し、志高く挑戦し続け、子どもたちと学校の未来を見据えた確かな計画と実行力をもって信頼に応える校長会」として会員の総力を結集し、下記事項の実現に全力を傾注することを、第74回総会の総意をもって宣言する。

### 記

- 一、確固たる経営方針に基づく、創意ある学校経営の充実
- 一、知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう力・人間性等の涵養を図る社会に開かれた教育課程の編成・実施・評価・改善
- 一、豊かな心や健やかな体の育成、いじめ・不登校等の解消を図る生徒指導体制の充実
- 一、特別支援教育の充実を図るなど、児童一人一人を大切にす教育の推進
- 一、デジタル教科書等への対応及びICTを活用した教育を推進するための「GIGAスクール構想」の推進・充実
- 一、東日本大震災をはじめとする災害からの復興促進及び風化防止を図る防災教育の推進
- 一、義務教育費国庫負担制度の堅持及び負担率二分の一の復元、人材確保法の堅持
- 一、法改正等による教職員の基礎定数及び加配定数の拡充、少人数学級・専科教員配置のより一層の推進
- 一、教科書無償給与制度の堅持
- 一、学校における働き方改革の推進
- 一、新型コロナウイルス感染防止など、児童の安全・安心を保障する人材の確保、施設設備等の充実
- 一、管理職・教職員の人的条件整備や処遇の改善、教員を志す優秀な人材の確保

令和4年5月27日

全国連合小学校長会 第74回総会

## 5 研修

### 1 講演「当面する初等教育の諸問題」

文部科学省初等中等教育局主任視学官

宮崎活志様

#### (1) 学校における新型コロナウイルス感染対策の取組

オミクロン株下では、新型コロナウイルス感染者数は小学生以下が多くなっている。感染経路不明の割合も高くなっている。臨時休校、休業を行っている学校は前回調査と比較し、減少傾向になっている。感染症対策については文部科学省「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」に基づき学校の感染対策の考え方、臨時休業等の基準を示している。オミクロン株対応のための留意事項も追加している。一部休業については、必要な範囲、期間について機動的に行うことが重要であり、同一の学級で複数の感染が判明した場合は5日程度学級閉鎖することとしている。学校等における感染対策等支援事業については、感染症対策に万全を期すとともに、児童生徒が安心して学ぶことができるよう、校長の判断で迅速かつ柔軟に実施できるよう学校裁量経費として学校規模に応じて補助する。政府の方針転換により、マスク着用の考え方について各自治体に周知した。基本は変わらないが夏季を迎えるにあたりマスク着用についてまとめ、リーフレットを作成し、既に文部科学省ホームページに掲載したところである。

#### (2) 学習指導要領について

その趣旨、内容が、各学校の全ての教職員に伝わり各地学校創意工夫を生かした教育活動が展開されることが重要である。引き続き必要な周知をしていく。

#### (3) 令和の日本型学校教育

次世代の学校教育の在り方について検討するため、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた特別部会を設置した。本部会では一人一台端末等を円滑に活用した児童生徒の学習指導、生徒指導の在り方、学校内外の環境整備の在り方についてさらなる検討を進めてい

く。

#### (4) 幼児教育と小学校教育の架け橋について

#### (5) G I G Aスクール構想の推進

我が国のICT活用状況は世界に比べ大きく後れ様々な課題があった。ICT環境も整備が進まず自治体間でばらつきも見られた。そのため、文部科学省ではG I G Aスクール構想とし、環境整備を進めてきた結果、98.5%の自治体で整備が進み、端末整備がおおむね完了した。また、持ち帰りについては95.2%で整備が進んだ。一人一台端末、校内環境整備が整い活用できるようになっている。ネットワークが遅い、教員の負担が増しているなどの課題が見えてきた。令和4年度に全ての小中学校にデジタル教科書の普及実証事業をしていく。一方、デジタル教科書の本格導入に向け実際の使用状況を踏まえた課題解決や配信基盤に向けた将来的なコスト効率化などが、喫緊の課題となり予算計上している。デジタル教科書の今後の在り方について様々な角度から検討している。ICTを活用した学習指導の支援を開始している。一人一台端末に関連して全国学力・学習状況調査におけるC B T化に向けた取組を進めている。児童質問紙をオンラインで行い、紙ベースでは困難な地域で迅速なフィードバック、データの収集が可能となる。G I G Aスクール構想の本格運用により、環境整備の面では世界水準においても遜色ないレベルに達しつつあり、豊かな学びにつなげていくことが次へのステップであり、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現させていく。

#### (6) 学級編制の標準

#### (7) 教師の資質能力等向上について

#### (8) 教師不足対応について

教師不足の対応は依然として厳しい状況である。末松大臣から教師不足に関して、社会人の活用、退職者、地元教員養成大学との連携、教員採用選考の改善について説明した。

#### (9) 教育職員等による児童生徒性暴力等の防止等に関する法律について

#### (10) 特別支援教育について

特別支援教育を担う教師の専門性向上のための養成、採用等の方向性を示している。

- (11) 学校における働き方改革について
- (12) いじめ、不登校対策、虐待について
- (13) ヤングケアラーの実態について

大人が本来担うべき家族の世話をしている子どもが一定程度いる。これらの早期発見のためにもスクールソーシャルワーカー等の配置の充実に取り組んでいる。早期発見、早期対応のためスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の関係者の活用をお願いしたい。

## 2 文部科学省行政説明

- (1) 初等中等教育局教育課程課長

常盤木祐一様

### ○学習指導要領の実施等

- ・子どもたちにどんな力を付けさせたいかが基本的な考え方である。
- ・主体的な学び、対話的な学び、深い学び
- ・よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創るという目標を共有し社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む。
- ・生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代に求められる資質・能力を育成する。
- ・平常時において、学校教育は教師と児童生徒との関わり合いや児童生徒同士の関わり合い等を通じて行われるものであることを踏まえ、平常時から非常時を想定した備えをしておく。
- ・非常時は可能な限り感染リスク低減・安全確保をした上で、児童生徒が登校して学習できるようにすることが重要である。
- ・感染症・災害等の状況に応じて、地域・学校・児童生徒の実情等を踏まえながら、学校において必要な措置を講じる。
- ・特に一定の期間、児童生徒がやむを得ず学校に登校できない場合などには、指導計画等を踏まえた教師による学習指導と学習状況の把握を行う。
- ・道徳の「特別の教科」化を受けた変化に係る学校・教育委員会の認識を踏まえ調査結果を総括的にとらえると、「特別の教科」化が目

指した道徳教育の量的確保が定着した。

- (2) 初等中等教育局財務課長 村尾 崇様

### ○小学校教科担任制の推進と学校働き方改革

- ・令和7年度までに、小学校では35人学級を実現する。
- ・35人学級の実証検証をスタートする。
- ・学級担任制では教員一人当たりの授業の平均は24.6コマである。教科担任制の導入により空きコマをつくることで、負担軽減につなげる。
- ・優先的に教科担任として進める教科は外国語、理科、算数、体育としている。
- ・地域の実情に応じて柔軟に加配措置する。
- ・学級担任制だけではできないマネジメントをしていくきっかけになる。
- ・働き方改革について、数字上と現場の声から確実に改善している。
- ・働き方改革取組状況調査からも人を増やすことを考えている。学校行事の精選、ICT活用による校務の効率化を図る。
- ・スクール・サポート・スタッフはコロナのためだけではない。さらなる活用を図ってほしい。
- ・働き方改革に関して事例集があるので活用してほしい。

- (3) 初等中等教育局児童生徒課

生徒指導室室長 小林雅彦様

### ○いじめ対応

- ・いじめ防止対策推進法の成立といじめ防止のための基本的な方針の策定がなされた。
- ・いじめの定義については、自分より弱い者に対して一方的に身体的、心理的な攻撃を継続的に加え、相手が深刻な苦痛を感じているものであった。(平成17年度まで)
- ・いじめ防止対策推進法では心身の苦痛を感じるという定義に変更された。この定義が広がったために、いじめ認知件数が増加している。これは文部科学省も一定の評価をしている。8割が解消している。
- ・ネットいじめも含め多様化、複雑化している。教員が一人で抱えこむことが悪い方向に進む

ことがある。学校のいじめ対策はいじめ防止対策委員会等、組織で対応することが法で定められている。

- ・重大事態に該当した時は調査をしなければならない。実際に調査する際には中立性、公平性を保つことができなければならない。第三者性をもった組織で調査をすることである。
- ・「生徒指導提要」を改訂している。活用してほしい。

#### (4) 初等中等教育局幼児教育課

幼児教育企画官 藤岡謙一様

##### ○幼児教育と小学校教育の架け橋

- ・幼児教育の質的向上及び小学校と円滑な接続を図っている。小1プロブレムの問題があり、落ち着かなかったり不登校になったりした。近隣幼稚園、保育園に来てもらい、環境に慣れさせたり、上級生が触れ合ったりする交流を行っている。
- ・意欲・関心、考える力、粘り強く考える力は、非認知能力と言われる。これは測定しにくい能力である。
- ・幼児期の子どもがこれらを伸ばすことができる時期であるという。幼児期で伸ばした力を小学校時代にさらに伸ばしていくことが大切である。
- ・「幼児期の終わりまでの育ってほしい力」と各園、学校が創意工夫を生かした「幼保小の架け橋」プログラムを実施する。
- ・発達段階を見通しつつ、5歳児から小学校1年生の2年間を「架け橋期」に着目し、全ての子どもに学びや生活の基盤を育む「幼保小の架け橋プログラム」を実施する。
- ・幼保小の架け橋の教育の充実を図り一人一人の多様性に配慮した上で全ての子どもに学びや生活の基盤を育む「幼保小の架け橋プログラム」を実施するため手引きを作成した。
- ・幼児教育推進体制等を通じた全国的な取組としてモデル地域の実践を19の自治体に依頼した。
- ・幼児教育内容に深く踏み込むことによってより良い学びにつながっていく。

#### (5) 総合教育政策局教育人材政策課

課長補佐 中村真太郎様

##### ○教育公務員免許法と教育職員免許法の改正

- ・任命権者は、校長及び教員等に関する研修の記録を作成する。指導助言者は校長及び教員に対し資質向上に関する指導助言を行う。
- ・教員研修計画に資質向上に関する指導助言等の方法に関して必要な事項を加える。
- ・普通免許状及び特別免許状を有効期間の定めのないものとし、更新制に関する規定が削除された。これまでの旧免許状はそのまま有効となり、新免許状で10年過ぎたものも申請することにより有効となる。
- ・新たな学びの姿として、研修機会の充実、研修内容・方法が適時見直される仕組み、日常的なOJT、校内研修等の充実、学びの成果の可視化と組織的共有、管理職等のマネジメントの下での協働的な職場づくりや主体的・自律的な研修に向けた全校的な組織体制が重要である。

##### ○教師の養成・採用・研修の在り方

- ・「新たな教師の学びの姿」を実現するための方策を講ずることで、教員免許更新制が制度的に担保したものは総じて代替できる状況が生じることなどから早急に講ずべき方策と同時に、教員免許更新制を発展的に解消し、「新たな教師の学びの姿」を実現して、教師の専門職性の高度化を進めていく。
- ・特別免許状の授与がなかなか進まない中で各自治体によって基準があいまいな面があったため、透明化するようになった。
- ・教育職員等による児童生徒性暴力等の防止等に関する法律・基本指針について、未然の防止、早期発見、対処の措置、事実収集、発見した場合には躊躇なく警察に通報するなどの対応をとってほしい。

## 6 閉会式

- 1 開 式 小正 庶務部長
- 2 あいさつ 第74回研究協議会開催地代表  
越野 島根県会長
- 3 閉会のことば 平川 副会長

# 第241回 理事会

令和4年5月26日(木)

於 KKRホテル東京「瑞宝」

- 全体進行 小正 庶務部長
- 1 開会のことば 阿久澤 副会長
  - 2 会長あいさつ 大字 会長
  - 3 会務・事業報告 小正 庶務部長
  - 4 理事の紹介 小泉 事務局長
  - 5 議事 議長 上山 副会長
- (1) 副会長・常任理事及び監事の補充 大字 会長

令和4年度の新たな候補者は以下のとおりで、原案どおり承認された。

会 長 (東京都)	大字弘一郎	
副 会 長 (東京都)	平川 惣一	新任
(大阪府)	上山 敏弘	
常任理事 (北海道)	紺野 高裕	新任
(岩手県)	紺野 好弘	新任
(東京都)	荒川 元邦	[対策部長]
(東京都)	植村 洋司	[調査研究部長]
(東京都)	横溝 字人	[広報部長]
(神奈川県)	小正 和彦	[庶務部長]
(静岡県)	西山 義則	[会計部長]
(兵庫県)	亘 進司	新任
(島根県)	越野 和胤	
(香川県)	真鍋 佳樹	新任
(長崎県)	山崎 直人	新任
監 事 (山形県)	田中 敦し	新任
(東京都)	吉岡 正司	新任
(富山県)	鳥内 禎久	新任

## ◎旧・新役員代表あいさつ

◎旧役員代表 阿久澤 前副会長  
本日の理事会がこうして、参集して行うことができてよかった。3年にわたる困難なコロナ禍でも、新しい学校の姿が見えてきたと感じる。今後の皆様のご活躍をお祈りする。

◎新役員代表 平川 新副会長  
旧役員の皆様にお礼を申し上げる。ポストコロナを見据えて、学校の在り方を元に戻すのではなく発展・深化が必要であると感じる。今後も皆様のご協力をお願いする。

以降、新役員による進行

## ◎宣言文起草委員会(別室)

- 全体進行 小正 庶務部長  
議長 上山 副会長
- (2) 第74回総会の議案について 各担当
- 第1号議案 令和3年度決算承認に関する件  
監査報告
- 第2号議案 令和4年度全連小活動方針に関する件
- 第3号議案 令和4年度各部(対策・調査研究・広報)活動に関する件
- 第4号議案 令和4年度通常会計予算に関する件
- 第5号議案 宣言決議に関する件

以上、第74回総会に提案する議案について協議し、原案どおり総会への提案が了承された。

- (3) 全連小75周年記念誌の頒布について〈承認〉  
横溝 広報部長

## 6 連絡

- (1) 第74回島根大会・第75回東京大会について  
◎第74回島根大会 越野 島根県会長  
令和4年10月13日～14日、松江市において「ふるさとを学びの原点に 未来にはばたく心豊かな人づくり」を副主題とし開催する。全連小の組織の活性化のために、ぜひ参集しての開催としたい。

- ◎第75回東京大会 秋山 東京都理事  
令和5年10月19日～20日に開催する。25年ごとの節目にあたる、全連小75周年記念式典も同時に行う。盛大な会にしたい。

- (2) 全連小75周年記念事業について  
小正 庶務部長

75周年記念事業実施計画を参照し、これまでの経緯及び今後の見通しを確認してほしい。50周年の時と同様に、式典には皇室の方をお招きしたいと考えている。記念誌について各都道府県に原稿依頼をする予定である。ご協力をお願いする。

- (3) 震災等災害被災県より 佐々木 宮城県会長  
東日本大震災より11年目を迎えた。被災地の復興及び防災対策の充実として、「人的支援継続の要望」「防災教育の充実」「風化させないための取組の推進」の3点を大事にしたい。

- (4) その他 小泉 事務局長

- 7 閉会のことば 平川 副会長